

子どもたちは、オヤジの手カヲを待っている？

おじやりんく通信



創刊号の「あじろ」

特定非営利活動法人おじやりんくが発行する定期刊行誌『おじやりんく通信』です。今回は第一号創刊号です！この定期刊行誌は3ヶ月に一度のペースで発行していく予定です。また普段は少し固い文章が多いのですが、この刊行誌だけは、かる〜いノリで読みやすくしたいと思っています。

さてさて！今回は2012年10月から12月までの活動やイベントを振り返ってお知らせをします。でもその前に！何故この定期刊行誌の名前が『おじやりんく通信』なの？っていうことを説明します。

これは私の息子が『おじやりんく』を『おじやりんく』って読んでいたんです。何度も言うつもりだから、私の耳に残ってしまっただけで、刊行誌とか発行するときは『おじやりんく通信』っていうタイトルにしよう！って思っていました。ただの親バカから出来た刊行誌名です（笑）そんな親バカな定期刊行誌にこれからはもお付き合いください。

Q. NPO 法人おじやりんくってどんな団体？

A. 特定非営利活動法人おじやりんくは、昨年11月に設立された、発達障害児・者の支援団体です。団体の特徴としては、設立時5名の役員と社員10名全員が、発達障害児を子どもに抱える父親だけで設立されました。

「子育て = 母親」という考えが強く根付いているなかで、父親たちが立ち上がり、発達障害児・者の支援に対して、父親目線から社会への理解啓発と将来の我が子らのような子どもたちの自立に向けて支援活動を行っているオヤジ中心の団体です。おやしパワーとネットワークを活かして、発達障害児を中心とした子どもたちの育成と将来の自立・就労に向けて支援活動をおこなっています。



厚生労働省 作成パンフレット「発達障害の理解のために」抜粋

どうして『発達障害』って？

発達障害者支援法において、「発達障害」は「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」（発達障害者支援法における定義 第二条より）と定義されています。

これらのタイプのうちどれにあたるのか、障害の種類を明確に分けて診断することは大変難しいとされています。障害ごとの特徴（とくちよう）がそれぞれ少しずつ重なり合っている場合も多いからです。また、年齢や環境により目立つ症状がちがってくるので、診断された時期により、診断名が異なることもあります。

大事なことは、その人がどんなことができ、何が苦手なのか、どんな魅力があるのかといった「その人」に目を向けることです。そして、その人その人に合った支援があれば、だれもが自分らしく生きていけるのです。

催す35名のオヤジが参加！

東京イベント「我が子らの将来について語りあおう」

昨年10月13日、東京大学内の福武ホールにて『第一回 ちよつと気になる子（発達障害）たちをささえるオヤジの集い』を開催。これには関東各地から35名の父親が参加。第一部ではレデックス認知研究所の五藤博義氏を招いて「発達障害認知機能の発達とその支援」と題し講演。

参加した発達障害児を子どもに抱える父親たちは、脳機能の観点や、認知機能、高次脳機能などについて勉強した。また子ども「学び」という観点から、デジタルメディアコンテンツ「こども脳機能パラランサー」を活用した。

我が子らの将来について語りあおう

て、楽しみながら学ぶことへの必要性を解説。参加者はその実演と講演に対し真剣に耳を傾けていた。

続いて第二部では「おやし座談会」として、参加者が自己紹介を含めて我が子らの悩みや学校での問題、そして家庭での悩みや仕事について懇談。

やはり共通する悩みとしては「我が子らの将来の自立」に関する問題が多く取り上げられた。



真剣に我が子らについて語り合う父親たち

賛助会員募集中！

当法人では賛助会員制度を設け、広く企業、団体、個人のみならずにご加入いただき、その会費を発達障害児・者の支援活動に役立たせておりますので、趣旨をご理解いただき、賛助会員としてご支援、ご協力くださいますようお願い申し上げます。詳しくは当団体ホームページにて！

皆様のご支援、ご協力お待ちしております！

父親だけのミニ懇談会 定期開催中です！



毎月第2・第4火曜日、さいたま市内において発達障害児を抱える父親のミニ懇談会を開催しています。

障害児、特に発達障害児を抱える親は、色々な悩みを持っています。「大勢ではなかなか話づらい」「同じ父親目線で語り合いたい」そんな方たちと基本的には少人数で膝詰めの対話をして、意見交換したり、悩みを語り合えたりできるミニ懇談会にしていきたいと思っております。開催日については、おやじりんくのホームページにてご確認ください。

- 開催日：毎月第2・第4火曜日
- 時間：18時30分から20時30分まで
- 参加費：無料
- 参加条件：発達障害児の子どもを抱える父親
- 場所：彩の国すこやかプラザ 会議準備室2
- 住所：さいたま市浦和区針ヶ谷 4-2-65
- 参加申込方法：詳細はホームページで！

大阪初！の関西イベントを挙行！ みんなが学ぼう！発達障害とその支援について

東京のイベントに続いて、翌月の11月23日、大阪市内において『みんなが学ぼう！発達障害とその支援について』を開催。これには大阪・奈良・神戸・愛知・岡山の各地から50名以上が参加した。



この大阪でのイベントは3部構成の4時間30分に渡るロングラン・イベントとなった。第一部は東京でのイベント同様、レドックス認知研究所の五藤博義氏による講演。講演内容は「発達障害認知機能の発達とその支援」として、50名の参加者は真剣に五藤氏の講演に耳を傾けていた。

知的障害者の自立。親亡き後の支援。障害児・者を持つ親の永遠のテーマ。
第二部はシンポジウムを開催。シンポジストには、社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団に所属し、



ファイナンシャルプランナーの資格も持つ、鹿野佐代子氏、そして社員7名のうち5名が障害者として雇用している有有限会社奥進システム代表取締役奥脇孝氏を招いて、知的障害者の就労やお金の支援・管理方法についてシンポジウムが行われた。

奥脇氏は「福祉と就業はひとつ大きな違いがある。それは、福祉は人を中心に考えて支援を考えるが、企業は物（製品）を作ることを中心に考えて皆でひとつになり活動する場。故に大切な事は福祉の段階からいかに、その人が他の人たちと生活リズムを併せる事が出来るか？を療育していくことが大切」と話した。また鹿野氏は生活リズムという事から考えて、通所支援施設での体験談をいくつか紹介。そこで奥脇氏同様、協調性について話した。また金銭管理について百円シヨップで手軽に揃えられるツールを使って行ったモニター結果などについても紹介し、お金の管理方法について事例を交えてアド



バイスをした。みんなが協力し、発達障害者が住みよい環境の構築を！
三部は参加者によるグループ懇談会を開催。今回のイベントも男性の参加者が多く、「このような障害者関係のイベントに参加すると、殆どが母親で、男性は少ないが今日のイベントの雰囲気は他とは違う。男性（父親）



刊行誌名：おじやりんく通信
 発行元：特定非営利活動法人おやじりんく
 所在地：さいたま市見沼区大和田町 1-913-1-409
 代表者：代表理事 金子訓隆 (かごりゅう)
 電話：048-677-5902
 F A X：048-610-8743
 加 盟：埼玉県社会福祉協議会団体会員

「おやじりんく」の団体活動については、ホームページを充実して情報配信しています。イベントスケジュール・活動内容や賛助会員・寄付についてはホームページをご覧ください。

E-Mail : info@oyajilink.net
HP: http://www.oyajilink.net/

ご紹介頂きまして、ありがとうございました！



「オヤジの目線で言うぞ！」
「実践障害児教育2月号」に
オヤジのインタビューが掲載！

ふぁみえーるパンフレットにてご紹介頂きました！

この定期刊行誌は、大和証券福祉財団さまの「第19回ボランティア活動助成」の活動助成金によって制作しました。

